

茗体会だより

東京高等師範学校体育科
東京教育大学・体育学部
筑波大学・体育専門学群

第4号の内容

- ・特集 パリ2024 オリンピック・パラリンピック
- ・旬：活躍する後輩たち 第19回世界剣道選手権大会（星子・松崎・大平・竹ノ内・川合・竹中選手）
- ・桐の葉の架け橋（4）・・・・・・・・・・・・・・・・前幹事長 平島 満（S39 教育大体卒）
- ・新会員の皆様へ
- ・役員より 通信連絡協賛費に関するお願い・総会提案事項の解説と依頼事項の趣旨について
- ・令和6年度 茗体会 総会・懇親会のご案内

パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会特集

【壮行会 2024.7.4 筑波大学会館ホール】日本選手団の尾縣団長、谷本副団長、増地柔道女子監督、出場選手を代表して4名のオリンピック・パラリンピアンが出席しました。



↑榎本 遼香 選手（水泳/飛込）



↑永瀬 貴規 選手（柔道男子81kg級）



↑高橋 利恵子 選手（ゴールボール女子）



↑森 秋彩 選手（スポーツクライミング女子複合）

【参考・引用】 筑波大学 体育スポーツ局 ホームページ
<https://www.tsukubaowls.com/>

筑波大学 体育スポーツ局 検索

東京からパリへ:記憶に残る2つのオリンピック

東京オリンピック日本選手団総監督

パリオリンピック日本選手団団長

筑波大学体育系教授 尾縣 貢

人類がコロナという敵を完全に克服したことを証明したパリ 2024 大会でした。どの会場でも満員の観衆、割れんばかりの声援は、忘れかけていたオリンピックの大興奮を蘇らせてくれました。パリ等を舞台にした華やかで、いつまでも記憶に刻まれるであろう第 33 回オリンピック競技大会が幕を閉じました。

コロナ禍の東京大会

パンデミックによる 2020 東京の 1 年延期が発表され、スポーツは不要不急の扱いを受けました。アスリートはトレーニングすることさえままならず、オリンピックを口にする 것도 憚られる日々が続きました。この最も苦しかった時期を多くの人たちの支えで闘い抜いたアスリートは、「感謝」という強い感情を持つことにより、さらに強くなりました。

金メダル 27、銀メダル 14、銅メダル 17、計 58 個のメダル、総入賞者数 135 という史上最高の成績は、持てる力を出し切った結果です。これは、オリンピックの舞台でも感謝という勝ち負けを超越した感情を持つことができたからだと思います。

閉会式会場の国立競技場の聖火が消え、スクリーンに浮き上がった“ARIGATO”の文字。この“ARIGATO”は、開催していただいたこと、支えていただいたこと、コロナ禍中に世界から集まっていたことに対する私たち選手団の感謝の気持ちの代弁でもありました。

東京からパリへ

パリ大会は、スポーツを支えていただいている全ての人々に“ARIGATO”をお返しする機会にしたいと考えました。それは、スポーツやオリンピックの魅力や感動を伝えることに加え、新たな価値を創り出し、広く伝えていくことでした。それを具現化するために、今回初めて TEAM JAPAN として「一步、踏み出す勇気を。共に更なる高みへ」をコンセプトに定めました。応援を一身に受けて躍動する選手の姿を通じて、「一步、踏み出す勇気」を多くの人に感じていただき、踏み出す先に素晴らしい未来が待っていることを伝えたかったのです。そして、それを機に多くの人がスポーツを「する・みる・ささえる・育む」ことに参画し、個々が幸せを享受するとともに、様々な社会的課題の解決を目指すことで、スポーツの真価を根付かせオリンピックへの理解を深めることを目指しました。

競技成績も素晴らしいものでした。金メダル 20、銀メダル 12、銅メダル 13、総メダル数 45、総入賞数 115 であり、事前に打ち出した海外での最多の金メダル数(16)、メダル数(41)、入賞数(88)を超えるという目標を達成することができました。また、メダル獲得競技数は 16 競技であり、これまで最高であった東京オリンピックの 13 競技を上回りました。今大会では、柔道、体操競技、レスリングなど、日本の基幹種目の活躍が目立ちましたが、馬術やセーリング、近代5種などでメダルを獲得するなど、メダル獲得競技・種目の広がりを見せたことは、これまでの継続した強化活動の成果であると言えます。また、多くの競技の視察を通して TEAM JAPAN の選手たちの競技への向き合い方、対戦相手への敬意、観客をはじめとする応援いただいた人々への振る舞いには、「憧れられるアスリート」を感じました。



記憶に残る斬新なパリ大会



パリ 2024 は、「Games Wide Open」という大会テーマのとおり、セーヌ川での開会式、エッフェル塔前、コンコルド広場、グラン・パレ等のパリを象徴する場所での競技が行われ、あらゆる所で多くの市民がオリンピックを楽しみ、オリンピックに融け込んだ大会でした。また、多くの観客が勝ち負けに関係なく、全力で競技に臨んだアスリートに惜しみない敬意と賞賛を送る姿は、文化として根付いたスポーツの価値を感じ、スポーツが国と国との相互理解を深める活動であることも感じました。

TEAM JAPAN は、今後も『スポーツの価値を守り、創り、伝える』という JOC ビジョンの下、「オリンピズムが浸透している社会の実現」、「憧れられるアスリートの育成」、そして「スポーツが社会課題解決」へ貢献するための活動を続けて参りますので、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

【オリンピック 日本選手団】

団 長 尾縣 貢 体育専門学群S57年卒 日本陸上競技連盟会長 現役時代は陸上競技十種競技で活躍			
副団長 谷本 歩実 体育専門学群H16年卒 アテネ・北京オリンピック女子柔道63kg級金メダリスト			
柔道女子日本代表監督 増地 克之 体育専門学群H5年卒 現役時代は全日本柔道選手権大会等で活躍			
氏名	卒業年	競技・種別	結果
東田 旺洋	体育専門学群H30卒	陸上競技/男子100m	
鶴澤 飛羽	体育専門学群 4 年	陸上競技/男子200m	
榎本 遼香	体育専門学群H31年卒	水泳/飛込：3m飛板飛込	
佐藤 友花	体育専門学群 4 年	水泳/アーティスティックスイミング チーム・デュエット	Team 5 位入賞 Duet 8 位入賞
棚村 克行	体育専門学群H25年卒	水泳/水球	
清家 貴子	体育専門学群H31年卒		
南 萌華	体育専門学群R3年卒	サッカー/女子	8 位入賞
千葉 玲海菜	体育専門学群R4年卒		
高橋 健太郎	体育専門学群H29年卒	バレーボール/男子	8 位入賞
井上 愛里沙	体育専門学群H30年卒	バレーボール/女子	
馬場 雄大	体育専門学群H30年卒	バスケットボール/男子	
坂井 幹	体育専門学群H30年卒		
徳田 新之助	体育専門学群H30年卒	ハンドボール/男子	
高野 颯太	体育専門学群R3年卒		
吉田 守一	体育専門学群R5年卒		
梶原 悠未	体育専門学群R2年卒	自転車/トラック	
與那嶺 恵理	体育専門学群H27年卒	自転車/ロード	
永瀬 貴規	体育専門学群H28年卒	柔道/男子81kg級 柔道/混合団体	金メダル 銀メダル
本村 直樹	体育専門学群H28年卒	ラグビーフットボール/男子	
森 秋彩	体育専門学群 3 年	スポーツクライミング/女子複合	4 位



【柔道男子81kg級優勝 混合団体準優勝 永瀬貴規選手】

柔道の永瀬選手は、2大会連続の金メダルを獲得しました。実力者が割拠する男子81キロ級は、これまでオリンピックで連覇を果たした選手はいませんでした。試合直後の日本のテレビへのインタビューで、永瀬選手は「まだ信じ切れていないですが、ここまでやってきたことが間違っていなかった。つらい日々もあったが、いろいろな人に支えられて今がある。本当に感謝、感謝です。」と語りました。

【パラリンピック 日本選手団】

氏名	卒業年	競技・種別
藤原 大輔	体育専門学群H28年卒	バドミントン/男子シングルス下肢障がいSL3
瀬立 モニカ	体育専門学群R4年卒	カヌー・スプリント/女子カヤックシングル運動機能障がいKL1
高橋 利恵子	人間学群R2年卒	ゴールボール/女子

※原稿〆切日の関係でパラリンピックは、結果が掲載できませんでした。ご了承ください。



活躍する後輩たち

7月4日～7日にイタリアミラノで開催された剣道の世界選手権で筑波大関係者が大活躍して完全優勝しました！

★第19回世界剣道選手権大会

剣道の世界選手権は昭和45(1970)年から3年ごとに団体・個人戦が開催されており、10回目から女子団体・個人戦も実施されるようになりました。今回は60カ国が参加。日本が男女とも団体と個人ベスト4を勝ち取りました。

男子団体戦優勝

星子 啓太 (個人戦優勝) R3 筑体卒 警視庁

松崎賢士郎 (個人戦準優勝) R3 筑体卒 筑波大学大学院博士課程1年

大平 翔士 (個人戦3位) R6 筑体卒 警視庁

竹ノ内祐也 H28 筑体卒 警視庁

女子団体戦優勝

川合 芳奈 筑波大学体育専門学群 4 年

竹中 美帆 R2 筑体卒 R4筑院修 栃木県スポーツ協会

「茗体会の未来像」

前幹事長 平島 満 (S39 教体卒)

令和5年11月19日(日)茗溪会館において、令和5年度「茗体会」総会が筑波大学接続記念と冠をつけて開催された。主賓席に中島前会長をお迎えできたことは、出席者一同にとって大きな喜びであった。中島前会長は90歳を超える高齢の中で、悲願として筑波大学との接続を進めてこられた。本来ならば、会長職にあった令和2年度に筑波大学接続記念総会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の想像を絶する拡大で中止となった。中止を決定した後、私は中島会長にこれ以上会長職に留まって頂くことは、余りにも理不尽なことと思ひ、ご無念を承知の上、令和3年度をもって辞任して頂いた。しかしながら、接続記念総会へのご出席には強い信念をお持ちであった。実は、総会当日は体調が十分でなく出席が難しい状況だったが、ご家族が総会でご支援くださり、ご挨拶のみということでご参加して頂いた。ご家族のご支援、ご協力に感謝あるのみであった。

遡るが、平成27年11月15日(日)茗溪体育100周年記念総会が中島会長の下、盛大に開催された。記念総会ではあったが議題として「茗体会」の今後の在り方について協議が行われ、協議結果として「筑波大学との接続」が決議された。ここで改めて「茗体会」の誕生について触れてみる。平成12年、前身である「東京高等師範体育科OB会」会長から、東京教育大学体育学部卒業生の代表者への呼びかけにより、両者による接続について協議が持たれ、名称を変更することを含めて接続が決定された。「茗体会」の誕生である。しかし、会員資格は東京高師体育科卒業生、東京教育大学体育学部卒業生のうち概ね65歳以上の者とした。その上、総会の案内は5年毎に全国、通年は関東地区のみとしていた。そのため、「茗体会」の存在は卒業生全体にとっては一般的とは言い難かった。そうした状況での活動が進む中、茗溪体育100周年を迎えるにあたって、平成22年度からは毎年、年齢、地域の制限を撤廃して、高師、教育大卒業生全員への総会案内が実施された。従って、100周年記念総会での「筑波大学との接続」決議は会員総意のものと言える。

話を戻し、筑波大学との接続について、実現に至る経緯と今後の課題について述べる。100周年記念総会の決議を受けて、筑波大学との接続を最重要課題として、私を幹事長として新役員会が結成された。その後2年間をかけて接続への具体策を検討、平成29年度より具体的な活動に入った。まずは、筑波大学卒業生代表の選任が必須とのことから、1期生代表者候補は奈良隆氏が適任との情報を得て、面会を求めた。当時、全国高体連専務理事を務め、多忙な中ではあったが、快く会談に応じてくれた。会談の中で奈良氏は「茗体会」の活動に共感され、接続への協力も快諾し、併せて2期生の磯村元信氏、4期生の久保淳氏を紹介してくれた。早速、両氏に面会を求め、接続への協力を依頼し快諾を得た。更に、磯村氏から、3期生の友添秀則氏の紹介を受け、後日面談し、協力を依頼し快諾を得た。筑波大学卒業生の代表者4名が揃ったところで、中島会長より4氏に対し、改めて正式に接続への協力依頼が為され承諾を受けた。平成31年度に入り、接続後の組織、活動の具体策が検討され、新役員には筑波大学卒業生を積極的に組み入れること、会員への情報提供を拡大すること、活動をより活性化すること等が話し合われ、更に、令和2年度総会を接続記念総会とすることが決定された。しかし、予想もなかった新型コロナウイルス感染症の流行、急拡大で記念総会が中止となり、待つこと3年、令和5年になって宮下新会長の下ようやく開催可能となった。接続記念総会の開催をもって東京高等師範、東京教育大学、筑波大学の「桐の架け橋」が繋がったのである。「桐の葉」を象徴として、茗溪の精神が末永く引き続けられる土台が構築され「茗体会」の新しい船出となった。

しかしながら、接続されたことによって「茗体会」の未来が明るくなったとは言い切れない。実は多くの課題を抱えている。これらの課題解決には筑波大学卒業生の知恵と実行力が欠かせない。また、コロナ感染騒動で活動が休止状態の中、新たな活動として「茗体会だより」の発行が始まった。この「茗体会だより」の活用が課題解決に役立つものとする。

既存の良きものと、新しき発想との融合で難題を解決していけば、「茗体会」の将来は開けていくと確信している。「茗体会の未来像」は筑波大学卒業生に託すこととする。



新会員の皆様へ

「茗体会」って、なんの会？ どんな会？

新会員の皆様、はじめまして！

突然届いた『茗体会だより』、そして「茗体会」・・・耳慣れない名前に「？」を持たれたことだと思います。紙面を借りて「茗体会」について、少し説明させていただきます。

「茗体会」は、筑波大学の前身である東京教育大学、及びその前身である東京高等師範学校の体育学部、体育科の卒業生、更に令和2年度からは筑波大学体育専門学群の卒業生も加わった「茗溪体育の高齢者同窓会」です。加入の目安は概ね65歳以上としています。

「茗体会」では、通常活動としては、年1回の総会・懇親会開催、年1回の機関紙『茗体会だより』発行、卒寿者への記念品贈呈などを行っています。『茗体会だより』や「総会報告」*は、その紙面を通して交流の場ともなっています。（*内容は下記参照）

また、これまで節目の年には「茗溪体育80周年記念誌」「茗溪体育100周年記念誌」などの「記念誌」の発行も行ってきました。「茗溪体育80周年記念誌」は高等師範学校体育科の歴史、「茗溪体育100周年記念誌」は東京教育大学体育学部の歩みを記しています。

今後は、筑波大学卒業生を加えたことを活かし、更に発展できる活動を検討していきますが、「茗体会」は、基本的には「同窓会」です。加入の資格や要件は無く、卒業生全員が有資格者になっています。したがって、総会・懇親会のご案内を含め『茗体会だより』は、連絡先が分かる全ての卒業生の方に送っています。もし入会を「辞退する」「案内不用」等のご希望がある場合にはご連絡ください。以後のご案内、連絡は控えさせていただきます。

「総会報告」（総会・懇親会のご報告及びご協力御礼）の内容の一部を紹介します

◎ 昨年の「総会・懇親会のご報告及びご協力御礼」でお届けした内容

- ・ 総会報告
- ・ 発送・返信状況、寄付者数一覧
- ・ 寄付者名簿（一覧） ⇨（紙面掲載時）令和5年度は12月現在で255名
- ・ 総会出席者（一覧） ⇨ 令和5年度は47名
- ・ 近況報告及び要望等自由記述（一覧） ⇨（紙面掲載時）12月現在で222名 *下記参照
- ・ 本人記入欄に記載者〔近況報告なし〕（一覧） ⇨（紙面掲載時）12月現在で270名

◎ 昨年の「近況報告」一部紹介

53 筑体	●●	新潟	〇〇での全ての「残心」を終え、故郷に帰ります（R4,12）。
53 筑体	●●	埼玉	ご苦労様です。なかなか「普通」がもどらない日々、体調をくずす方が多い中、何とか細々とやっております。顔を見て話ができること、皆さんのお元気な笑顔に会える日が、待ち遠しいです。
54 筑体	●●	宮城	「茗体会だより」ととても楽しく拝読させていただき、後輩の活躍をうれしく思います。筑波大学2期生だった私達は、他の学群のカリキュラムを取ることができ、とても先進的と感じたものです。今でもその中の(他学群)一人と友達としておつき合いさせてもらい、人生のいろどりとなっています。内外ともに開かれた大学であってほしいものです。
56 筑体	●●	東京	現在、都立〇〇高校にて非常勤教員をしております。



通信連絡協賛費（寄付金）に関するお願い

茗体会会長 宮下 憲 (S45 教体卒)

今年はパリオリンピック・パラリンピック大会年。海外で行われた大会で45個という史上最大のメダル数を獲得するなど日本人選手の活躍に大いに勇気づけられ、元気をいただきました。なかでも筑波大学卒業生で柔道81キロ級の永瀬貴規選手（H28年卒）が見事オリンピック2連覇を成し遂げ大きな感動を与えてくれました。

さて、本会の主な収入源であります通信連絡協賛費として寄付金（以後「寄付金」と称す）を毎年多くの皆様から賜り誠に有難うございます。心から感謝申し上げます。

昨年度も多くのご支援をいただきましたが、協力者の減少により収入が減少する事態となりました。当初400名を見込んでいた協力者は実際には310名に留まりました。それにもかかわらず、補正予算を組まずに活動を続け、支出が予算額を大きく超え、前年度繰越金の半額弱を取り崩すこととなりました。今年度は繰越金が通常の半額以下で、当初予算が少なく、本会活動に支障が出るのが懸念されます。財務状況を見通せず適切な対応をしなかった責任は会長の私にあると認識しておりますが、皆様には今後に向けてのご協力をお願い申し上げます。

今年に入り物価の高騰が続き、各家庭の家計が厳しくなっていることと思います。本会も例外ではなく、10月に予定されている郵送費の値上げが実施されますと、寄付金だけでは今年度の印刷費と郵送費を賄いきれない状況が予測されます。昨年度の決算では、寄付金が84.5万円、印刷費と郵送費の支出合計が約92.6万円と8万円の赤字になりました。そして、繰越金を除く単年度収入が131.3万円に対し、実質支出合計が187万円と、本会の健全経営を支えていた繰越金を大きく流用せざるを得ない状況を惹起させてしまいました。本会としては、郵送費を縮小するためにインターネットの活用、印刷費の軽減対策など、経費節約に鋭意努めて参ります。

そこで、皆様には大変心苦しいお願いではありますが、本会継続のために通信連絡協賛金（寄付金）を一口2,000円から3,000円以上に引き上げることを役員会で決定させていただきました。物価の上昇により厳しい経済状況ですが、皆様のご協力を切にお願い申し上げます。



総会提案事項の解説と依頼事項の趣旨について

幹事長 古山 光久 (S50 教体卒)

○総会提案事項の解説

1. 茗体会 新役員の承認

幹事長 古山光久 S50 教体卒 副幹事長 阿江通良 S48 教体卒 柳久美子 S50 教体卒
情報管理 久保淳 S56 筑体卒 広報 大石進 S56 筑体卒
会計 西塚春義 S53 筑体卒 山崎成夫 S56 筑体卒 相談役 木村由子 S55 筑体卒
監事 佐藤光一 S49 教武卒 学年幹事 平島満 S39 教体卒 北尾雅迪 S44 教健卒

2. 令和5年度会務・会計・監査報告

①事務局会・役員会の開催

②総会案内の発送総数 = 3,120名 返信総数 = 509名 寄付者総数 = 310名

③会計・監査報告 収入の部 総収入 2,447,367円 (繰越金 1,134,363円、寄付金 845,000円他)
支出の部 総支出 2,447,367円 (年度内 1,869,920円、繰越金 577,447円)
主な支出項目 (送料 460,080円、印刷費 465,825円、記念品贈呈費 100,345円)

3. 令和6年度活動計画・会計中間報告案

- ・今年度の総会・懇親会は11月17日(日)に開催します。
- ・役員会は、5月、6月に事務局会を開き、7月に第1回役員会を開きました。年度末までに合計4回の開催を予定しています。
- ・「茗体会だより」第4号を発行します。今回は総会案内も含めて作成しています。
- ・記念品贈呈者(卒寿者のうち本会に貢献のあった方)は20名を予定しています。

4. 「茗体会だより」の発行と編集方針について

- ・「茗体会だより」の発行も今回で第4号となりました。昨年の記念号発行に引き続き、今年はオリンピックイヤーであることを鑑み、内容の充実を図りました。

5. 総会における講話について

講話「筑波大学体育専門学群卒業生の進路について」 茗体会副会長 野村良和 (S47 教健卒)

○本会活動に関する依頼事項

1. 寄付金振入のご依頼 (同封の郵便振替用紙又はATM、ネットバンキング利用)

本会は会費を徴収しない任意団体です。3,000人を超える会員への連絡経費及び会務運営費等は賛同していただいた方の寄付金で賄われています。今後は筑波大学卒業生の会員が増加していきますが、寄付者数は令和3年度460名、令和4年度430名、令和5年度310名と減少傾向です。

郵便料金値上げも控えており、経費節減は喫緊の課題としてとらえ、メールやライン等の活用を積極的に進めています。会員の皆様にこの状況をご理解いただき、今後も本会の活動にご協力いただける方には、寄付金として**3,000円以上**をお願いすることとなりました。

寄付金をいただいた方については、12月頃に送付する総会報告に掲載させていただきます。

2. 近況報告記載のご依頼 (Google フォーム又は同封の返信ハガキ利用)

本会の主たる目的は、会員相互の親睦を深めることにあります。今後はより広く会員相互の意思の疎通を図り、情報の共有を深めることが本会存続の重要な鍵となります。

まずはご自身の近況を伝えていただきたいと思います。それが相互理解を深める第一歩になります。同封の返信ハガキへの記載、又はQRコードを活用してGoogle フォームへの入力をお願いします。近況報告だけでなく、本会及び「茗体会だより」へのご要望等忌憚のないご意見をお寄せください。(返信ハガキをご利用の方は、**63円切手(10/1以降は85円)**の負担をお願いいたします。)

なお、いただいた近況報告は一覧にして、12月頃に送付する総会報告とともにお届けします。

3. メール等による情報伝達へのご協力依頼 (筑波大学卒業生並びに東京教育大学卒業生)

昨年度、事務局内に「情報管理委員会」を立ち上げました。情報管理担当役員を委員長に各1名の学年幹事で構成し、情報伝達方法を検討しています。今年度は、茗体会会則に則り、情報管理に精通した会員を相談役として委嘱しました。より効果的な情報連絡体制の構築に努めますので、引き続き学年幹事へのご協力をお願いいたします。Google フォームの活用にもご協力ください。

4. 筑波大卒業生の新規加入について

今年度から筑波大学卒業生(5期生〜)が順次加入して参ります。1〜4期生の方々には、5期生以降の方々へ茗体会の存在、学年幹事の選任の周知、協力をお伝えいただきたくお願いいたします。

令和6年度 茗体会 総会・懇親会のご案内

初秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝でお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、今年度の総会・懇親会を下記の日程により開催することと致しました。

昨年度は、念願の筑波大学との接続を記念とする総会・懇親会を開催することができました。茗体会として、東京高等師範、東京教育大学、筑波大の卒業生が茗溪の名のもとに一体となり、皆でお祝いすることができました。

今回は、筑波大学卒業生5期生を迎えます。この会が更に発展する基盤を築いていけるよう、多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

記

日時 令和6年11月17日（日） 12時～14時45分（受付開始：11:45）
場所 グレースバリ新宿3階「アロナ」 <https://www.grace-bali.com/shop/shinjuryuku/enkai/>

総会 ☞ 新宿駅（東口）徒歩5分 新宿区役所の2つ先のビル

1. 会長挨拶
2. 令和5年度会務報告、会計・監査報告
3. 令和6年度活動計画、会計中間報告、役員紹介、
4. 講話「筑波大学卒業生の進路について」 元筑波大学体育専門学群長 野村良和

懇親会 懇談、歓迎・入会スピーチ、宣揚歌等

会費 10,000円（懇親会費・集合写真代・記念品代・通信連絡費など）

*欠席の方で、本会の趣旨に賛同され寄付金にご協力いただける方は3,000円以上の協力をお願いします（通信欄に「会費」「寄付」を記入）。振込は10月末までにはお願いします。

<出欠及び近況報告等の連絡について>

次のいずれかの方法でご連絡ください。

- ① 右のQRコードからGoogleフォームに入力する。
- ② 同封の返信ハガキを郵送する。（63円をご負担ください。10/1以降85円）

*準備の都合上総会の出欠のお返事は10月末までにはお願いします。



<総会会費・寄付金の振込方法についての連絡>

*振込方法が複数になりました。どの方法でも振込可能です。

- ① 同封の郵便振替用紙利用 ☞ 郵便局のATMも利用可能です。
- ② 銀行・コンビニのATM利用、ネットバンキング利用 ☞ 以下確認の上送金してください。

銀行名：ゆうちょ銀行 店番：〇一九 口座番号：当座 0562311

口座名：茗体会

振込人氏名【例】S50タイ フルヤマミツヒサ カイヒ（又はキフ）*学科と氏名の後は1マスずつ空ける

和暦(S)卒業年+学科（体育→タイ/武道→ブ/健康→ケン）筑波大卒はツク

★ ☆ 編集後記 ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

今回は、2024パリオリンピック・パラリンピック特集と筑波大卒業生を迎えた茗体会の活動を中心にまとめてみました。お楽しみいただけたでしょうか。筑波大5期生の尾縣団長の寄稿は、嘉納治五郎先生から引き継がれるオリンピックへの茗溪の魂が溢れています。また平島前幹事長の「桐の葉の架け橋」には、茗体会の経緯が綴られています。この「茗体会だより」が茗溪体育の心を同じくする同窓の方々の絆の場になることを願います。（広報担当）